

## 平成 30 年度通常総会（定時社員総会）議事録

日 時 平成 30 年 5 月 30 日（水）13 時 00 分～16 時 30 分

場 所 横浜市 パシフィコ横浜会議センター（301～304）

出席者 249 名、委任状による出席者 10 名 計 259 名

（注）代議員総数 296 名（過半数は 149 名、3 分の 2 は 198 名）

司会の香取幸夫幹事から開会宣言があった後、山唄達也会長（第 119 回通常総会・学術講演会）から挨拶があった。

### 開 会

定款第 16 条に基づき森山 寛理事長を議長に選出した。

森山 寛議長から、通常総会・学術講演会開催にあたり、山唄会長はじめ東京大学関係者に対する謝辞および次の事項等についての挨拶があった。

- 21 の委員会が活発に活動していること
- ①改革推進会議、②学術講演会、講習会および関連する学会の在り方などの WG、③医会全般に関する WG、④会員情報管理の一元化に関する WG の活動に関すること
- 嚥下医療については耳鼻咽喉科医が主体となって治療に従事することとなるが、引き続き嚥下治療について、日本歯科医師会と協議を重ねていくこと
- 保険診療報酬については、担当理事、担当委員会の先生方の努力により、満足のいく結果となったこと
- 財務の健全化は喫緊の課題であるが、日耳鼻の事業展開が拡大していること等により、30 年度の予算が厳しくなっているため対応が必要なこと
- 日本臨床耳鼻咽喉科医会（仮称）の事務室及び日耳鼻の書庫について、総合的に検討していること
- 卒前卒後委員会の先生方、各大学の先生方の努力により、30 年度は 260 名を超える専攻医数となったこと
- 日耳鼻研究奨励賞が制定されたこと
- 日耳鼻の運営を会員にできるだけ理解していただくため、理事会議事録を詳細にして、会報に掲載していること

また、森山 寛議長から、今回の代議員の出席者は 249 名、委任状による出席 10 名の計 259 名で、定足数 198 名（今回は定款の変更が決議されるため、代議員 296 名の 3 分の 2）に

達しており、定款第 14 条第 1 項および第 18 条第 1 項に基づき平成 30 年度通常総会（定時社員総会）を開会するとの宣言があった。

議事録署名人には医育機関から東京都地方部会の岩崎真一代議員、開業関係から東京都地方部会の小林毅代議員の 2 名を指名した。

次に、平成 29 年度の物故会員 58 名に対して、黙祷を捧げた。

その後、審議に入った。

## 1. 報告事項

### 第 1 号報告 平成 29 年度事業報告について

平成 29 年度事業報告について、担当理事から、冊子に基づき各委員会の事業および業務について報告があった。

### 第 2 号報告 平成 30 年度事業計画について

平成 30 年度事業計画について、高橋晴雄副理事長から冊子に基づき報告があった。

### 第 3 号報告 平成 30 年度収支予算書について

小川 郁副理事長から、平成 30 年度収支予算書（損益計算ベース）および同（資金ベース）について冊子に基づき報告があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支予算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、前年度に比べて 48,429,000 円増の 584,326,000 円となった。増額の主なものは、5 事業収入 1) 定期集会参加費等収入の増を見込んだこと、5) 専門医審査登録料は専門医機構の負担金のための増を見込んだこと、6 補助金等収入で GSK からの助成金があること、IC カード収入を見込んだことである。また、減額の主なものは、5 事業収入 3) 広告料収入である。

事業活動支出は、98,385,000 円増の 689,271,000 円となった。1 事業費は、10,637,000 円増の 494,011,000 円である。増額の主なものは、(1)職員給与手当、(8)消耗品費、(20)委託費であり、(6)通信運搬費、(13)賃借料、(15)諸謝金、(23)HP 維持費が減額となっている。2 管理費は、87,748,000 円増の 195,260,000 円である。増額の主なものは (5) 旅費交通費、(11)印刷製本費、(16)租税公課、および会員情報一元化に伴う (20) 委託費である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は 69,404,000 円で、事務所建替積立預金取崩収入 60,000,000 円がその大部分を占めている。投資活動支出は 3,559,000 円で、退職給付積立預金支出 2,871,000 円等である。

IV 予備費支出の部では、予備費 3,000,000 円を計上した。

以上日耳鼻本部をまとめると、当期収支差額は△42,100,000円であるが、これに前期繰越収支差額45,000,000円を加えて、次期繰越は2,900,000円となっている。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、Ⅰ 事業活動収支の部では、事業活動収入791,007,596円、事業活動支出906,460,681円で、収支差額は△115,453,085円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、70,404,000円、投資活動支出6,619,000円で、収支差額は63,785,000円である。

Ⅳ 予備費支出の部では、予備費は3,200,000円である。

これをまとめると、当期収支差額は△54,868,085円であるが、これに前期繰越収支差額375,834,396円を加えて、次期繰越は320,966,311円となっている。

#### 第4号報告 専門医制度について

阪上雅史理事から、専門医制度について、報告があった。

#### 第5号報告 会員情報新システムについて

高橋晴雄副理事長から、会員情報新システムについて、報告があった。

#### 第6号報告 第120回総会・学術講演会の宿題報告について

黒野祐一次期会長から第120回総会・学術講演会の宿題報告を

島根大学 川内秀之会員 「鼻副鼻腔炎症病態の制御に向けた免疫薬理学的アプローチ」

神戸大学 丹生健一会員 「頭頸部がんの最適化医療—根治とQOLの両立を目指して—」

聖マリアンナ大学 肥塚 泉会員 「超高齢社会におけるめまいと平衡障害への対応」に依頼したことについて、報告があった。

## 2. 決議事項

#### 第1号議案 役員選任に関し、承認を求める件

森山 寛議長から、定款に従い平成29年9月に役員候補者選出委員会が設置され、管理会の長を小宗静男会員に、管理会の委員を假谷 伸、神崎 昌、平林秀樹、二藤隆春の各会員に委嘱したことの報告があった。

小宗静男静役員候補者選出管理会の長から、役員候補者の受付を行った結果、理事立候

補者 22 名、監事立候補者 3 名の届け出があったとの報告があり、理事立候補者 22 名の中から理事候補者 19 名を選出すること及び投票方法について説明があった。

続いて、病院関係から愛知県地方部会の藤本保志代議員、開業関係から神奈川県地方部会の沖久 衛代議員が開票立会人に指名され、代議員による事前議決権行使（投票）に入った。

投票終了後、小宗静男静役員候補者選出管理会の長から、投票の結果、選出された理事候補者は、50 音順で猪原秀典、奥野妙子、香取幸夫、川内秀之、塩谷彰浩、高橋晴雄、土井勝美、中川尚志、西崎和則、丹生健一、春名眞一、兵頭政光、福與和正、藤枝重治、藤岡 治、村上信五、森山 寛、山唄達也、吉崎智一の 19 名であるとの報告があった。

森山 寛議長から、19 名を理事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。また、監事立候補者の浅井英世、甲能直幸、古川侃の 3 名を監事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。

次に、森山 寛議長から、役員を選任決議を個別に行うとの提案があり、新理事として、猪原秀典、奥野妙子、香取幸夫、川内秀之、塩谷彰浩、高橋晴雄、土井勝美、中川尚志、西崎和則、丹生健一、春名眞一、兵頭政光、福與和正、藤枝重治、藤岡 治、村上信五、森山 寛、山唄達也、吉崎智一の 19 名および新監事として浅井英世、甲能直幸、古川侃の 3 名を選任した。

第 2 号議案 平成 29 年度貸借対照表および正味財産増減計算書に関し、承認を求める件

小川 郁副理事長から、平成 29 年度貸借対照表、正味財産増減計算書および資金ベースの収支決算書について冊子に基づき説明があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支決算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、予算額に対し、39,184,355 円増の 575,081,355 円となった。増額の主なものは、会費収入、5 事業収入 1) 定期集会参加費等収入、GSK の助成金による 6 補助金等収入および 7 寄付金収入の増である。減額の主なものは、5 事業収入 5) 専門医審査登録料収入であるが、これは制度の改正で納入時期が 1 年繰下げられたためである。事業活動支出は、予算額に対し、13,618,796 円減の 577,267,204 円となった。1 事業費は、10,218,665 円減の 473,155,335 円で、増額の主なものは、(8) 消耗品費、(20) 委託費等である。減額の主なものは、(4) 会議費 (11) 印刷製本費、(13) 賃借料は通常総会・学術講演会での会場費等の減である。2 管理費では、3,400,131 円の

減の 104,111,869 円となっているが、増額の主なものは、(6) 通信運搬費、(16) 租税公課等であり、減額の主なものは、(5) 旅費交通費および(20) 委託費である。事業活動収支差額は、52,803,151 円減の△2,185,849 円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、奨学基金取崩収入、専門医制度積立金取崩収入および退職給付積立金取崩収入により、17,233,630 円であり、投資活動支出は、奨学基金積立預金支出および退職給付積立預金支出等で 5,944,580 円等である。収支差額は 989,950 円増の 11,289,050 円である。

以上、日耳鼻本部の決算をまとめると、当期収支差額は 9,103,201 円であり、前期繰越収支差額が 37,245,379 円あったため、次期繰越は 46,348,580 円である。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、Ⅰ 事業活動収支の部では、事業活動収入 811,823,252 円、事業活動支出 809,939,318 円で、収支差額は 1,883,934 円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、23,476,508 円、投資活動支出 8,004,580 円で、収支差額は 15,471,928 円である。Ⅲ財務活動収支の部では、借入金収入 100,000 円である。これをまとめると、当期収支差額は 17,455,862 円であるが、これに前期繰越収支差額 293,377,528 円を加えて、次期繰越は 310,833,390 円となっている。

更に、事務所建替積立預金について、日耳鼻事務所を今後自前で所有することは金額的に困難であると考えられることから、将来の事務所移転の費用とするなど、検討する必要がある旨、説明があった。

監事を代表して今井昭雄監事から、平成 30 年 4 月 25 日に浅井英世、今井昭雄、古川侃監事により監査を行ったが、適正である旨の報告があった。

加えて、森山 寛理事長から、公認会計士による独立監査法人の報告書においても、適正に管理されている旨記載されているとの説明があった。

平成 29 年度貸借対照表および正味財産増減計算書について、審議の上、原案のとおり承認した。

第 3 号議案 定款および定款施行細則の変更に関し、承認を求める件

定款および定款施行細則について、高橋晴雄副理事長から、冊子に基づき説明があり、審議の上、原案のとおり承認した。

第4号議案 第123回総会・学術講演会の会長候補者選出に関し、承認を求める件

森山 寛理事長から、第123回総会・学術講演会の会長候補者選出について、昭和61年2月理事会決定「会長の選出方法に関する理事会申し合わせ」に基づき、平成29年7月に、参与、代議員に会長候補者の推薦を依頼したこと、およびその結果を参考にして平成30年4月27日開催の理事会において、会長候補者として兵庫県地方部会の丹生健一会員を候補者として承認した旨報告された。丹生健一会員を会長とする提案に対し、審議の上、これを承認した。

第5号議案 名誉会員に関し、承認を求める件

名誉会員推薦内規に基づき、八木聡明会員を推薦する提案があり、審議の上、これを承認した。

### 3. その他

#### 1. 医会について

森山 寛理事長から、検討が進められている耳鼻咽喉科の医会の全国的な新組織について、平成30年7月に全国耳鼻咽喉科医会の設立大会、平成31年秋に一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会（仮称）の設立等の進捗状況やこれからの課題等について報告あった。

#### 2. SPIOについて

公益財団法人国際耳鼻咽喉科振興会（SPIO）野村恭也理事長から、SPIOの事業等について報告があった。

以上ですべての議事が終了した後、森山 寛議長から謝辞があり、閉会宣言があった。

平成30年5月30日

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会平成29年度通常総会（定時社員総会）

議事録署名人（議長） 森 山 寛 ⑩

議事録署名人（代議員） 岩 崎 真 一 ⑩

議事録署名人（代議員） 小 林 毅 ⑩